

中濃圏域 各医療機関の2026年度末に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1		医療法人香徳会 関中央病院	関市	【現状、特徴】 地域包括ケア病棟50床、回復期リハ病棟50床、療養型病棟50床で運用中。地域包括ケア病棟は地域からの直接入院が、また回復期、療養型は地域の急性期病院からの紹介入院が主であり、いずれも高水準の稼働率を維持している。 【課題】 常勤医師（特にリハビリテーション専門医）、看護師、看護補助者などの医療スタッフの確保。	地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関として、要介護状態高齢者の様々な医療ニーズに対応する。具体的には高度医療を要さない急性病態の診療、要介護状態を改善するリハビリテーションをさらに充実する。今後は病院から地域へのアウトリーチとして特に在宅医療分野に注力する予定。	実施 済み					○	①2018年3月に10対1入院基本料から地域包括ケア入院基本料へ変更し病院全ての病床を回復期、慢性期機能へ変更した。 ②上記に記載あるように稼働率が良好である ③地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関として今後も維持継続する ④現状と同様に地域との連携を図る以上のことより、現状維持とする
2	変更	岐阜県厚生農業 協同組合連合会 中濃厚生病院	関市	【現状、特徴】 救命救急センターを併設し、へき地医療拠点病院、感染症指定医療機関、地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院、紹介受診重点医療機関の指定を受け、公的医療機関の責務として包括的な医療を提供している。 【課題】 ①令和7年4月から地域包括ケア病棟44床を休床せざるを得ない状況であるなど、看護師不足が極めて深刻な状況である。また、薬剤師についても同様であり、医療人材の確保対策が喫緊の課題であると認識している。 ②特定診療科の医師への負担が慢性的であり、医療DXの積極的な導入による負担軽減対策が急務である。 ③病院建物施設整備についても26年が経過し、インフラ設備の改修等を計画的に実施していく必要がある。	①中濃圏域(特に関市・美濃市・郡上市)から他医療圏域への流出患者数の減少に寄与すべく救急医療体制の更なる充実を図る。 ②増加し続ける高齢者救急への対応について、地域医療機関との役割分担を明確にし、患者情報の効率的な共有方法を検討する。 ③紹介率50%、逆紹介70%の基準を継続し、地域医療支援病院の指定を目指す。			実施 済み	○			③平成30年4月 歯科口腔外科開設、令和2年3月地域がん診療連携拠点病院、令和6年2月紹介受診重点医療機関、令和7年4月 形成外科常勤化 ④主に関市、美濃市、郡上市の地域が直面する様々な医療・介護福祉課題に対し、中濃長良川流域病院連携協議会を立ち上げ協議していくことを決定した。
3	変更	美濃市立美濃病院	美濃市	【現状、特徴】 高齢者に多い6疾患（誤嚥性肺炎・心不全・転倒骨折・軽症脳梗塞・尿路感染症・脱水症）を中心とした包括期医療（一部の急性期・慢性期を含む）を地域の中で担当するために2025年12月より全病棟を地域包括期病棟（医療1・ケア2）とした。 【課題】 常勤医師、看護師ほか医療スタッフの安定確保	増加する高齢者救急のうち軽症者層を24時間体制で受ける機能。在宅療養支援病院として、介護施設入所・在宅療養中の患者の救急を含む急変対応を地域内で中心的に担う機能。併設する健康管理センターで地域の健診体制の強化を進め、地域密着型の地域包括ケアシステム支援病院としての機能を充実させる。	実施 済み			実施 済み			2025年12月より全病棟を地域包括期病棟（医療1・ケア2）に転換 地域医療連携推進法人「美濃国地域医療リンケージ」（参加団体の追加）（美濃病院、松波総合病院、海津市医師会病院、羽島市民病院、小林内科）
4		太田病院	美濃加茂市	【現状、特徴】 地域住民が安心して日々生活ができるように、地域に必要とされる医療を提供する。 【課題】 常勤医師が中心メンバーが50歳を超えてきたこと。	急性期、回復期、慢性期と病床数は30床くらいずつで管理・運営は非常に大変だけど、地域住民からは本当に必要とされている。						○	本当に医療機能を集約して効率化することだけが地域住民の医療福祉の向上になるのでしょうか？

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
5		中部国際医療センター	美濃加茂市	【現状、特徴】 地域の健康を守る拠点として、予防活動から災害時支援まで包括的な医療を提供。高度急性期・急性期医療を担い、2024年4月に県下初の陽子線治療を開始し、更なるがん医療の充実に注力している。2025年4月救命救急センターに指定、24時間365日断らない救急医療を実践している。さらに、第一種・第二種協定指定医療機関として、新興感染症に対応できるよう2025年5月には新興感染症対応病棟を稼働、地域の中核的な急性期拠点病院としての役割を担っている。 【課題】 救命救急センターや高度専門医療の拡充、感染症対応の強化に伴い、専門性の高い医療従事者の安定的確保と計画的な育成が最重要課題である。また、地域の医療機能分化を推進するため、地域の医療機関との前方連携を強化すると共に、急性期治療後の患者の円滑な地域移行を促進する後方連携の更なる強化が必要である。	中濃圏域の急性期医療を担う拠点として、医療従事者の充実に図りつつ、専門的手術や陽子線治療を含む高度ながん医療を継続的に提供する。救命救急センター機能の確立を通じた安定的な救急医療体制の構築を喫緊の課題として推進していく。また、災害拠点病院としての機能整備や、新興感染症対応病床の安定運営により、いかなる状況下でも急性期患者の受け入れを維持できる強靱な医療提供体制を確立を目指す。	実施 済み						2022年1月の新病院移転後、診療実績は大幅に伸長している(括弧内は2024年度実績の2022年度比)。紹介率76.7%(129.3%)、新入院患者数13,507人(104.6%)、高い病床利用率(急性期病床)92.9%(102.8%)を維持しつつ、平均在院日数(急性期病床)は10.4日(▲0.9日)へと短縮。特に圏外流出の大きかった呼吸器領域の充実と共にロボット支援下手術の領域拡大により、手術室手術件数4,802件(118.2%)、全身麻酔件数2,418件(120.5%)、ロボット支援下手術343件(175.9%)と顕著に増加し、2025年度は更なる増加を見込んでいる。幅広い手術への対応力の向上に加え、陽子線治療等の導入と併せて、当院が担うべき高度急性期の需要が増加していると判断。当初の想定通り、2025年度の高度急性期病床数は276床としている。
6		中部脳リハビリテーション病院	美濃加茂市	【現状、特徴】 脳疾患、整形疾患を中心とした回復期リハビリテーション病棟を稼働。地域の急性期病院からの後方支援を行っている。また、高次脳機能障害・てんかん・認知症にも対応している。当院は独立行政法人自動車事故対策機構の施設を併設し自動車事故による遷延性意識障害の患者受入も行っている。 【課題】 医療スタッフの確保。施設の老朽化。	急性期を経過した脳血管疾患、整形外科疾患の患者の在宅復帰を目的とした回復期リハビリテーションの提供						○	地域に不足している病床機能である回復期の分野を担う。
7		医療法人社団耀和会 濃成病院	可児市	【現状、特徴】 ・入院病棟60床は、療養病棟に特化。 ・外来は内科、外科、整形外科等対応。 【課題】 ・地域内において療養特化していることは周知されているが、新型コロナウイルス感染症の発症以来、従来通りの患者移動に多少の困難を来たしている。	・現在の療養型病院として機能していく所存であります				○		○	④複数医療機関による連携について深化させていきたい ⑥現状維持という部分は、地域内に療養型病院が必要不可欠と考え、近隣病院の要望にも応え運営していきたい又、病院規模(人員)からも当面、現状維持方針で継続運営していく考えである
8	変更	独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院	可児市	【現状、特徴】 可児市における中核病院の役割を担っている。高齢者救急の受入や在宅医療の支援が求められていることから、地域の開業医との連携を強化し病診連携が円滑に行えるよう努めている。 【課題】 中濃医療圏や東濃医療圏の高度急性期病院からの下り搬送を積極的に行いたいため、基幹病院との連携を強化する必要がある。	地域の開業医を訪問し当院の得意分野を説明し円滑に受け入れできる体制を構築している。 地域の在宅医療や介護サービスと連携を深め、高齢者救急の受け入れや社会的な入院が可能であることを説明している。 救急車受入件数は年間800～900件を維持する。 高齢者に多い誤嚥性肺炎、骨折、心不全、尿路感染症の受入を行う。	実施 済み	○					①令和8年8月に急性期一般病床のうち49床を地域包括ケア病棟に転換をした ②休床中の30床については、医師および看護師の確保が困難なため令和9年3月までに返還をする予定

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
9	変更	医療法人社団慶 桜会 東可児病院	可児市	【現状、特徴】 可児市内で唯一脳神経外科医が常勤として勤務する医療機関である。脳神経外科をはじめ整形外科、消化器外科、循環器内科、内分泌内科、消化器内科、呼吸器内科、人工透析についても積極的に担っている。また、救急搬送受入についても積極的に対応している。 【課題】 当院も医師の高齢化が進んでおり、医師の積極的な採用や大学医局に派遣依頼をお願いしている。しかし、医局も医師不足等により診療科によっては派遣が困難な状況がある。このため医師の計画的及び継続的な採用計画を図ることが課題である。	可児地域(約116,000人/可児市及び御嵩町)は人口減少していく地域ではあるが、今後15年は65歳以上の高齢者増加が見込まれ、まだまだ医療を縮小することはないと考えています。可児市内には、当院を含み三病院しかいないため、救急受入体制の再構築、外来診療及びウオークインの充実を検討して図っていきたい。	○	○				○	療養病床52床全ての許可病床を返上し、現状では急性期病棟だけで運営を考えている。しかし、将来的には、地域包括病棟や介護療院も検討している。また、診療科については、将来的に当地域のニーズや高齢者患者が多いことも考慮に入れ再編の必要性を感じている。
10	変更	医療法人 馨仁会 藤掛病院	可児市	【現状、特徴】 一般病棟 急性期一般入院料6 57床 内、地域包括ケア入院医療管理料2 9床 休床 2床 許可病床数 計 59床 病院併設介護医療院 入所定員 51名 【課題】 一般病棟の病床稼働率が8割程(一般80.9%, 地ケア83.0%)であり、病床の適正化を検討。看護師確保も困難である。	病床の適正化を図り、現在の機能を維持。 在宅医療や介護分野にも力を注ぐ。		○					病床数適正化緊急支援事業の申請中
11		県北西部地域医療 センター国保白 鳥病院	郡上市	【現状、特徴】 実績(R3年度):届出区分 46床 地域包括ケア病棟入院料1 平均在院日数19.8日、病床稼働率73.2% 特徴:4機能のうち在宅復帰、在宅支援の回復期機能に取り組んでいる。 他機関との連携:郡上市、白川村、高山市荘川町からなる県北西部地域の地域医療を支えるため、基礎自治体の枠組みを越えて各医療機関が広域的なネットワークを構築し医療の相互支援による取り組みを行っている。 【課題】 ・地域の医療需要の減少が見込まれるため、県北西部地域の安定的医療供給を目指して医療連携の更なる基盤強化を図る必要がある。	地域の現状を考慮し、ポストアキュート、サブアキュートを支え在宅へのつなぎ、あるいは在宅支援のための入院機能を持ちながら、外来・在宅を中心とした医療を展開し、保健介護との連携も継続しながら、市民の広義の健康づくりを支援していく。また県北西部地域のへき地医療を安定的に支えるため、その基盤強化と連携の充実を図る。	実施 済み	実施 済み		実施 済み			・令和2年4月1日より一般病床60床、結核病床4床の合計64床から一般病床46床に見直しを行い、その46床すべてを地域包括ケア病床とした。 ・令和元年12月19日に郡上市、高山市、白川村を医療連携推進区域とした一般社団法人県北西部地域医療ネットを設立し、R2年4月1日に岐阜県知事により地域医療連携推進法人の認定を受け、地域医療連携推進法人県北西部地域医療ネットとして活動を開始。
12	変更	郡上市民病院	郡上市	【現状、特徴】 広大な中山間地を有し、30キロ圏内に三次救急病院がない郡上地域において、中心的な役割を担う医療機関として救急医療や急性期、慢性期病床機能に対応しているほか、地域で唯一の分娩取り扱い施設となっている。 【課題】 人口減少、高齢化等により変化する医療需要に対応するため、病床数、機能等の見直しを検討しているが、施設基準を満たす人材の確保が困難。また、独居老人、老々介護の問題が深刻化する中、在宅に向けた介護施設が不足しており退院後の療養体制が不十分。	患者が安心して療養生活を送られるよう、病診、病病連携、医療福祉(訪問介護、介護施設)との連携強化を図り、診察、入転院、救急対応を担うとともに、市内の民間病院との入院機能統合に向けて受け入れ環境の整備や諸調整を図る。	○	実施 済み	○	○			広範な郡上市を南北の医療圏に分け、それぞれの病床数や機能分化について検討する場を模索しており、このうち南部では2病院間で入院機能統合について協議し、病床数を削減した。 設置主体が同じ国保白鳥病院と病院間の役割の明確化と機能分化について協議中。 ICTを活用し市内公立医療機関において患者情報・診療情報の共有を行っている。
13		社会医療法人 白 鳳会 鷺見病院	郡上市	【現状、特徴】 郡上市人口3万6千人、高齢化比率が40%と高い地域である。広域な郡上市では南部地域は郡上市民病院、北部地域は鷺見病院・白鳥病院が一次二次救急を担っている。 【課題】 医師、看護師の高齢化 医療スタッフの確保	広域な郡上市北部において、三次救急病院との連携を図り救急、急性期医療を担う。また郡上市全体の慢性期患者数、必要となる病床数の確保を検討。今後郡上市の人口、医療従事者が減少していくなか、限られた医療資源を有効活用できるよう地域医療機関との調整を行う。		○					【病床数見直し】 一般急性期病床12床 療養病床8床 【削減予定時期】 令和8年度末 【削減理由】 人口減少に伴い医療需要の減少

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
14		医療法人 新生会 八幡病院	郡上市	【現状、特徴】 人口減少、高齢化、医療需要の変化、医療スタッフ不足などにより厳しい運営状況にある。消化器内科が強みであり、郡上市全域から集患しており、リハビリニーズには積極的に応じていきたい。 【課題】 病床稼働率の低下、職員の高齢化（人材育成）、建物・設備の老朽化、経営基盤の強化など	郡上市民病院と協力して入院機能を郡上市民病院に統合し、八幡病院の一部医療スタッフを郡上市民病院に移職することにより、医療スタッフの充実を図り郡上南部の医療を守る。八幡病院は外来機能を継続し、住民の利便性を損なうことなく患者に寄り添う地域の身近な医療機関として市民が健康で安心して暮らせるまちづくりに貢献する。	実施 済み	○		○	○		2022年に療養病床7床と一般病床4床を削減 2023年5月に療養病床0床に一般病床を38床に削減 2025年度又は2026年度に一般病床38床を郡上市民病院に統合、診療所として外来機能を継続
15		伊佐治病院	八百津町	【現状、特徴】 医療依存度が高く長期的な療養が必要となる患者様に対して、入院期間の制限がない病床として地域での役割を担っている。 【課題】 介護施設では対応できない医療依存度の高い患者様を受け入れる施設が少ない一方で、八百津町においては生産年齢人口の減少よりスタッフの確保が困難になっている。	引き続き、介護施設や在宅での療養が困難な患者様に対して入院期間の制限がない病床として地域での役割を担っていく。						○	地域の医療機関さまと協力し役割分担を行っている。 そのなかで医療法人大治会においては療養病棟や有床診療所、介護施設等必要なサービスを提供している。 今後も病床のある医療法人として、地域において必要な事業を継続する。
16	変更	医療法人 白水会 白川病院	白川町	【現状、特徴】 白川町、東白川村など近隣の唯一の病院であることで、地域医療と救急医療を担っている。そのため総合科を中心に歯科、眼科を維持している。 【課題】 療養病床の一部を介護医療院に転換したいがうまくいかない	白川町、東白川村唯一の病院であり、地域医療、救急を担う						○	今まで同様、近隣の唯一の病院であることで、地域医療と救急医療を担う。
17		桃井病院	御嵩町	【現状、特徴】 人口2万人の可児郡に唯一の病院として在宅・介護・入院・救急の分野を担うこと、県立多治見病院や中部国際医療センターなどの地域医療に欠かせない機関との連携を深めて3次救急のベット確保に当院への転院受入れを積極的に実施。 【課題】 看護、介護職員の確保に苦慮。特に介護職についてはコロナによるイメージで病院での就職を避ける傾向にある（ハローワーク談）。 病院機能は今後も変わることはないので人員確保が課題。	病院での看取りには限界があり特に療養病床は特養と同じで死亡退院でベッドが空かない限り新規受け入れは困難。 いかに入院患者を在宅へシフトしていくか・・・を踏まえると在宅サービスの更なる充実が求められる。						○	当地のニーズを考察するにやはり自宅へ戻る選択ができない家庭環境（家族構成、住宅構造、金銭面など）が多いのは現実である。その中でできるだけたくさんの医療介護サービスを選択できる選択肢を用意できている現時点においては理想的な環境にある。
18		せきレディースクリニック	関市	【現状、特徴】 1次施設としての産科・婦人科診療 【課題】 特になし	1次施設としての産科・婦人科診療						○	今後の医療ニーズを踏まえて、現在の医療機能の維持が必要
19		佐藤歯科医院	美濃加茂市	【現状、特徴】 専門歯科医療を担って診療所の役割を補完する機能をもつ 【課題】 現状以上に急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向けて、歯科医療を提供する必要がある	急性期患者に対し、これまで以上に質の向上をさせ、安全で安心な歯科医療を提供することを目指す						○	歯科医療における急性期病床はほとんどないため、必要な病床を確保する必要がある。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
20		岩永耳鼻咽喉科	美濃加茂市	未回答								
21		ふかがや眼科	美濃加茂市	【現状、特徴】 入院施設を要する眼科医院は近隣では皆無であり、交通弱者、僻地、独居など入院手術を希望する患者に対し、一定のニーズがある。 【課題】 入院可能な病院との棲み分け	現在と同様、入院希望の患者に対応する。						○	全身疾患を有さない患者、あっても軽症で内科的な疾患を近隣のかかりつけ医で管理中の患者は、入院手術を希望する場合であっても、近隣での中核病院での手術をきらう傾向がある。待ち時間や、病院ならではの小回りの利かなさがネックとなっていると考えられる。そのような患者に対し、従来通りの医療を提供したい。
22		ローズベルクリニック	可児市	【現状、特徴】 当院では、周産期医療のプロフェッショナルとして、すべての社員が協力し合い、すべての患者様に対して最新の知識、最大の安全性、最善の倫理観をもって、常に優しく誠実に診療にあたり、社会に広く信頼され、人々の健康と幸せに大きく貢献ができる様、真摯に研鑽と努力を続けてきました。 ◆診療実績 月平均分娩数＝60.0件（2022年1月～6月実績） 【課題】 特になし	分娩を継続していき、地域の周産期医療を支えています。						○	周産期医療機関であり、特段見直しを必要としていないため。
23	変更	とまつレディースクリニック	可児市	【現状、特徴】 令和6年4月より分娩の取り扱いやめ、婦人科疾患を中心に地域に密接した医療機関。温かく丁寧なケアで女性をサポート。 【課題】 産科をやめ収入減となった。経営安定するように様々な努力が必要。病床数を適正に削減すること。	思春期から成長期、更年期、老年期にかけてあらゆる年代の女性の一生をトータルサポートします。特に婦人科疾患、不妊治療、子宮がん検診等に地域医療のため、さらに力を入れたい。		○					②令和6年4月より分娩の取り扱いをやめたため、入院管理が激減し、現在は、流産手術等の日帰り入院のみを扱っております。現状14床の一般病床を13床削減し、令和8年9月より1床へする予定。
24		大和医院	郡上市	【現状、特徴】 現在休床中。 【課題】 豪雪地帯山間部にあり、人口減少地域のため。	検討中					○		地域的住民には病床回復を望む声もあるが、歴史的、人的・物理的・経済的・環境的難題があり、解決に至っていない。
25	変更	県北西部地域医療センター国保和良診療所	郡上市	【現状、特徴】 県北西部地域医療センターの枠組みの中で、地域住民の医療、福祉、健康を守る、へき地診療所として、持続可能な地域医療の提供に取り組んでいる。 【課題】 ・患者数の減少による診療収入等の減少が続いている。 ・医療従事者の確保が難しくなっている。	身近なかかりつけ医療機関として、また在宅診療を提供する医療機関として、地域住民の健康を総合的に支援する。			実施済み	実施済み			③整形外科の廃止（令和2年4月） ④地域医療連携推進法人の設立（令和2年4月）
26		かわべ眼科	川辺町	未回答								
27	変更	医療法人社団 麟生会 田原医院	川辺町	【現状、特徴】 地域における老人医療 【課題】 特にない	老人医療		○					職員数の確保の困難
28		粕谷医院	八百津町	未回答								

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
29		伊佐治医院	八百津町	【現状、特徴】 肛門科の手術の患者に加えて、地域の患者様や在宅医療の患者の急変時に入院等に対応している。 【課題】 高齢層が増えていく中で、介護施設との連携も取りながら、急性期や回復期を脱した後の患者の在宅医療への橋渡し。	現状の課題達成のために継続取り組みを行う						○	今後も肛門科と、地域の患者様や在宅医療の患者の急変時に対応していくため
30		御嵩クリニック	御嵩町	【現状、特徴】 在宅や施設から二次救急病院へ入院後もとの所に帰れない患者の受け皿としての機能が当院の存在意義であります。 【課題】 特になし。	現在と同じです。						○	現状の存在意義に変更はない。
31	変更	今井内科	可児市	【現状、特徴】 認可病床数(急性期)14床、現在は休床中。 【課題】 マンパワーの不足。	減床。および睡眠時無呼吸の検査入院などの検討。		○					現在休床中。マンパワーの不足もあり、減床予定。